

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571800269		
法人名	有限会社 ウエハラ		
事業所名	グループホーム幸ちゃんの家2号館	ユニット名	西館
所在地	宮崎県小林市野尻町三ヶ野山2157-9		
自己評価作成日	平成24年11月30日	評価結果市町村受理日	平成25年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&jigyosyoCd=4571800269-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

幸ちゃんの家では、外出に力を入れています。地域の方にも知っていただけるように、車椅子7台収容の大型バスを購入しました。今では、近場ばかりではなく遠出をしたりして、利用者様に喜んで頂いています。ご家族から、「私たちが連れていけない所まで行かせてもらえて、とても嬉しいです。」と感謝の言葉を頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者は、「幸ちゃんの家が利用者や家族から選ばれた理由」を常に立ち戻る原点と考え、よりよいホームの運営を目指している。ホームは、アットホームな雰囲気の中、利用者の笑顔が多く見られ、また、地域にも積極的に出かけて交流し、利用者の徘徊い時には、近隣に顔写真を配布して協力を得ている。家族へのリフト車の貸し出しや大型バスの購入で、車いすの利用者も遠出ができるようになり、大変喜ばれている。各委員会活動も活発で、日中のおむつ外しやトイレ誘導で、おむつの使用を減らしたり、地域のボランティアと交流を行い、ケアの工夫、管理者・職員の努力、家族の協力で、利用者の笑顔を引き出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に積極的に出掛け、利用者さんや幸ちゃんの家を知って頂くという理念を掲げ、全職員に周知し、実践に向けて取り組んでいる。		全職員で理念を検討し、職員は利用者の笑顔が増えるように、安心と満足を図り、声かけや寄り添うケアを実践し、地域住民との交流も楽しんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	委員会（ボランティアコーディネーター）を通して、日常的に地域と交流している。10月は、民生委員、幼稚園児と共に、野尻の改善センターにて、幸リンピック（運動会）を行った。また、11月は、保育園の慰問、12月は、そば打ちを予定している。		地域のボランティア、老人会、幼稚園、保育園、中学校などと交流を活発に行っている。徘徊かいは近隣に理解を求め、利用者の顔写真を配布して、協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の徘徊模擬訓練に参加し、訓練の参加者に、認知症ケアについての理解を深めてもらった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の活動報告、法人研修、委員会活動の報告、毎月テーマを決め発表（11月は感染症対策について）、参加者には意見や要望を受け、サービスの質の向上に生かしている。		運営推進会議では、建設的な意見や提案が出ている。意見等を検討し、料理教室の開催、ホームの見学などを積極的に受け入れ、ホームのサービス向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、利用者様の活動内容、事業所の活動内容等の報告をしている。		運営推進会議時に、管理者は、市の担当者に介護保険のことや運営について伝えている。日ごろはホーム長が直接、電話や出向くなどして、連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の施錠はしないようにしている（利用者様の状況により、施錠することもあった）。体動の激しい方は、床にマットレスをしたり、見守りにて、4点柵をしないようにしている。		法人内で、身体拘束の勉強会を行い、ヒヤリハットを活用して、職員の理解を図っている。また、利用者へのスピーチロックには注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修にて学び、常に意識して取り組んでいる。特に、言葉の虐待には、職員と確認し合っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度の研修にて、成年後見の勉強会を行った。また、安心サポートなど利用されている方もおり、今後も勉強等は必要である。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、活発な意見交換がなされている。		運営推進会議、ホーム行事や忘年会の参加、来訪者も多く、活発に意見も出て、協力的である。管理者・職員は、利用者の状態などを丁寧に説明したり、メール送信やホーム便りを送り、家族の心配や不安を解消している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の時、個別に話を聞くなどしている。		職員間の連携もよく、外部・内部研修には積極的に参加している。月1回の職員会議に副社長が出席して、職員の意見や提案を聞く機会があり、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフとは、年に2回、個別に面談の機会を設けること。管理者とは、月1の管理者会議にて、確認するように努力している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修の出席や提出レポートに必ず目を通し、スタッフ一人ひとりの思いを把握するように努力している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	びっきょん会（野尻町内のグループホーム連絡会）を通じ、2カ月に1度、参加するよう声かけを行っている。			

自己 外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ショートスティからの入所がほとんどである。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも同じように、ショートスティ相談員を通じ、ニーズの把握につとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内にショートスティがあるため、本当に在宅生活が困難な方への支援ができています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に応じて対応している。得意なことを教わったり(編みもの、裁縫)することで、支えあう関係づくりができる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夕涼み会、敬老会、ホームの忘年会等、家族に参加をお願いし、楽しい時間を共有して頂いている。面会時に、日常の様子を説明し、居室にて過ごしていただく。家族、利用者共に、笑顔が多く見られる。毎月、新聞(スマイル)を発行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に帰られる時や墓参りに、ホームのリフト付きの車の貸し出しや職員も同行している。	墓参り、なじみの店での買い物や行きつけの美容室、また、個別に行きたい場所に出かけている。家族や友人などの来訪時は、継続的な交流ができるように、ゆっくりとくつろいでもらえる雰囲気づくりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアにて過ごされる際、利用者さんの相性を考慮し、安全かつ心地良く過ごせるように配慮している。また、東館に行ったり、西館に来たり、利用者様同士の交流を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態が悪化し、退所され、移動された後も面会に行き、家族、本人とかかわりを行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で、会話や行動、表情等から、本人の希望をできる限り把握できるように努めている。また、困難な方には、家族から昔のことを聞き、参考にしている。		本人、家族の意向は、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を使用している。利用者を理解した声かけや寄り添ったケアで思いを聞き、言葉で表せない利用者には表情でくみ取り、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの品物等で、その人らしい居室づくりに努めている。本人、家族からも情報を得ている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムに合わせ、過ごして頂いている。できる事、できない事を見極め、できる事は十二分に引き出せるように努めている。また、週2回の作業療法士の指導によるリハビリを行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の意向を取り入れるとともに、全職員に、アセスを行ってもらい、プランを作成している。		本人の意向や家族、職員の意見などは、カンファレンスや職員会議等を出して反映し、現状に合った介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	週1の会議にて、職員に意見を出してもらい、検討する。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の送迎や車の貸し出しをしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徘徊時、近隣に利用者様の写真のビラを配布し協力を得ている。利用者様のご家族が、ボランティア(日舞)に来て下さった。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一回の主治医の往診、定期受診、また、歯科、皮膚科等、看護師との連携を細かにし、利用者の体調の安全に努めている。		本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。家族同行の受診時も職員が同行して、生活状況や心身の状態を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	午前・午後の一回、看護師が巡回されるので、その日の利用者さんの様子を報告する。また、夜間は、看護携帯を持ち回りで、看護師に連絡できるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、看護師と連携をとり、早期退院に向け、アプローチを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ある程度、家族には、方針については確認しているが、ターミナルに入った時点で再確認し、家族、主治医との話し合いをし、方針を決め、職員に伝えている。8月に亡くなられた利用者の家族には、毎月の様子をメールにて報告した。		心肺蘇生等の研修を行い、看とり方針やマニュアルも作成している。主治医、家族、管理者や職員が話し合っ方針を共有し、重度化に伴う随時の意思確認をしながら、経過記録に記入している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行っている。7月の法人研修にて、心肺蘇生法、ADLの使い方を実施した。8月に亡くなられた方が呼吸停止の際、職員が落ち着いて、心肺蘇生が行えた。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、消防訓練を行っている。また、年に1回、消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。市の防災無線等を通じて、地域住民に呼びかけるようお願いした。		2ユニットともスプリンクラーが設置されている。災害訓練は行われているが、地域住民、地元消防団などは参加していない。	災害時に備え、地域住民が参加して、利用者の状況、ホームの構造、車いすの操作などを体験してもらうことも行ってほしい。また、地元消防団に働きかけて、訓練に参加協力を得ることも期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に、人生の先輩として敬意を払い、日常の業務の中で、尊重した声かけを職員に指導している。		プライバシーについては、週の会議、月1回の職員会議などで話し合い、現場で個別に指導、教育をしている。さりげない言葉かけや対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を作れるように、日頃から、コミュニケーションを図り、本人の希望に添えるように努めている。厨房がホームに来て行われるバイキングの際、食べたい物を聞き、行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、起床・就床は、利用者様のペースに合わせている。意見を尊重できるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の利用者さんは、毎日髭剃りを、A勤がするようにしている。衣類の選択が可能な利用者様には、本人に選んで頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備が可能な方は、おかずの盛り付けと一緒にやっている。食事は、利用者様と一緒に会話しながら楽しく、食事を行っている。お盆拭きも毎日行って頂いている。		作業療法士の指導で、スプーンからはし利用となった利用者があり、残存能力を生かした食事の支援を行いながら、職員は利用者と一緒に、食事や会話を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分のトータルを計算し、利用者様一人ひとりの状態を把握している。食欲が低下している利用者様には、管理栄養士、調理師と連携し、その方にあった支援をする。また、職員と一緒に話し合い、工夫をし、少しでも食べて頂けるよう、努力している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に応じて、実施している。歯ブラシ、口腔ケア用のウェットティッシュ等、義歯は、夜間洗浄剤に浸けている。歯ブラシ、コップは、週に1回、ハイターにて消毒している。			

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ケア委員会の活動にて、オムツ費用への意識の改善を全職員に徹底している。利用者様の排泄パターンを把握し、オムツの使用削減に努めている。また、毎月データを出している。		排せつチェックを行い、日中のおむつ外しやトイレに誘導しておむつの使用を減らし、排せつの自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士の献立にて、食物繊維を多く摂取できるようにしている。おやつにサツマイモをよく用いている。運動不足を補う為、平行棒にて毎日運動をしている。また、下剤調整を行う。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在、機能的に、浴槽に入れる方がおられず、シャワー浴なので、足浴をしながらシャワー浴を行っている。冬にはゆず風呂も行っている。		現在、浴槽に入る利用者も増えている。週3回の入浴だが、利用者の希望する日に入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	程よい運動や散歩にて、安眠できるように努めている。寒くなると、就床前に、足浴を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、二人にて確認をしている。全職員が薬の把握ができるようにしている（薬手帳、服薬説明書）。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、外出等で気分転換ができるように支援している。現在、3月に行われる作品展示会に向けて、ちぎり絵を作製している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回は、外出するようにしている。本人の希望を聞いたり、職員で季節に応じた外出を支援している。また、最近、大型バスを購入し、外出が楽になり、できる限り多く設けるように支援している。		利用者の希望の場所（海・川・山）の単語が出た時は、職員の五感で行きたい場所を感知して計画を立て、利用者から喜ばれている。家族等の協力もあり、積極的に外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	西館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はありますが、希望があれば、おこづかい帳をつけて、家族に報告、確認して頂く体制をとっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年の夏、利用者様の遠方におられる弟さんからお中元が届き、お礼の電話をかけた。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅改修型で量があり、家庭的な環境である。四季を感じて頂けるように、ホームの飾りつけに配慮している。観葉植物を多く取り入れ、心地良い空間づくりに努めている。		共用の空間は、適切に温度調整がしており、こたつは車いすでも使えるようになっている。職員や家族の作った置物や季節ごとの飾り物が飾られており、清潔な空間で、心地よく快適に過ごせる配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの廊下にソファを置き、利用者さんが、ゆっくりできるように努めている。フロア内での座り位置は、利用者様の状態、相性等を考慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、自宅に近い雰囲気を出せるように心掛けている。写真を貼ったり、馴染みの家具等を置き、居心地良く過ごせるように工夫している。		折々のスナップ写真や趣味の品々、時計、使い慣れた鏡台、家族の写真などが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるように、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分かるように、表れをしている。建物内の各箇所には、手すりが付いており、安全な環境で、安心して生活できるように支援している。			